



大阪中之島美術館

2024年度開催展覧会のお知らせ

■2024年度開催の展覧会が決定

このたび2024年度に開催する展覧会のラインナップ（下記）が決定しましたのでお知らせします。つきましては、各展覧会の告知についてご協力賜りますようお願い申し上げます。

【2024年度開催展覧会ラインナップ】

① モネ 連作の情景	2024年2月10日（土） - 5月6日（月・休）
② 没後50年 福田平八郎	2024年3月9日（土） - 5月6日（月・休）
③ 没後30年 木下佳通代	2024年5月25日（土） - 8月18日（日）
④ 醍醐寺展	2024年6月15日（土） - 8月25日（日）
⑤ 塩田千春 つながる私	2024年9月14日（土） - 12月1日（日）
⑥ TRIO パリ・東京・大阪 モダンアート・コレクション	2024年9月14日（土） - 12月8日（日）
⑦ Space In-Between : 吉川静子とヨゼフ・ミューラー=ブロックマン	2024年12月21日（土） - 2025年3月2日（日）
⑧ 歌川国芳展	2024年12月21日（土） - 2025年2月24日（月・休）

■モネ 連作の情景

【概要】

印象派の巨匠、クロード・モネ（1840 - 1926）は自然との対話を求め、季節や天候、時刻などによって自在に変化する風景の「瞬間性」をとらえようと探求を続けました。1891年に発表した〈積みわら〉以降、モネは連作の画家として国際的に名声を博します。水辺の景色などが刻々と変化する情景を描き、連作という手法によって絵画の新しいあり方を提示しました。ジヴェルニーの庭園では〈睡蓮〉のシリーズに取り組み、後世の芸術家に大きな影響を与えています。また、本展は1874年にパリで第1回印象派展が開催されてから150年を迎える節目の展覧会として開催するものです。モネが描いたさまざまな作品をご紹介し、壮大なモネ芸術の世界をご堪能いただきます。

【展覧会名】モネ 連作の情景

【会期】2024年2月10日（土） - 5月6日（月・休）

【主催】大阪中之島美術館、関西テレビ放送、産経新聞社

【会場】大阪中之島美術館 5階展示室



【主な出品作品】



(左から)《ウォータールー橋、ロンドン、日没》1904年 ワシントン・ナショナル・ギャラリー © National Gallery of Art, Washington. Collection of Mr. and Mrs. Paul Mellon, 1983.1.28 | 《ウォータールー橋、ロンドン、夕暮れ》1904年 ワシントン・ナショナル・ギャラリー © National Gallery of Art, Washington. Collection of Mr. and Mrs. Paul Mellon, 1983.1.27 | 《ラ・マンヌポルト（エトルタ）》1883年 メトロポリタン美術館 Image copyright © The Metropolitan Museum of Art. Image source: Art Resource, NY. Bequest of William Church Osborn, 1951 (51.30.5) | 《睡蓮の池》1907年 石橋財団アーティゾン美術館 | すべて クロード・モネ

■没後50年 福田平八郎

【概要】

1892年に大分市に生まれた福田平八郎は、京都に出て美術学校で学びます。1919年に第1回帝展に初入選し、次いで第3回帝展に出品した《鯉》が特選を受賞し時代の寵児となりました。障壁画や琳派の画風を研究し、写生を基本としながら形態の単純化をおしすすめます。豊かな色彩と奇抜な画面構成による独特の装飾表現を志向し、1932年に《漣》(重要文化財)を発表しました。戦後は斬新な視点で雨の情景を描いた《雨》をはじめ、《新雪》、《水》など情緒豊かな作品を手がけ、今なお人々を魅了し続けています。本展では、日本美術の伝統を継承しながら、西洋絵画からの刺激を受けつつ近代的な新しい日本画の世界を切り拓いた福田平八郎の画業を紹介します。

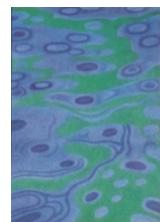
【展覧会名】没後50年 福田平八郎

【会期】2024年3月9日（土）- 5月6日（月・休）

【主催】大阪中之島美術館、毎日新聞社

【会場】大阪中之島美術館 4階展示室

【主な出品作品】



(左から) 《漣》(重要文化財) 1932年 大阪中之島美術館 | 《新雪》 1948年 大分県立美術館 | 《水》 1958年 大分県立美術館 | 《雲》 1950年 大分県立美術館 | 《竹》 1942年 京都国立近代美術館 | すべて 福田平八郎



■没後30年 木下佳通代

【概要】

木下佳通代（1939 - 1994）は神戸を拠点に活躍した、関西の戦後美術を代表する美術家のひとりです。60年代半ばより、神戸で結成された前衛美術集団「グループ〈位〉」と行動をともにしながら、存在、認識、空間などをテーマとして、三次元と二次元の像のズレを写真やゼログラフィーで表現するなど、一貫して視覚と認識との関係性や個々の事物の存在について問いかける作品を制作しました。その後、80年代より絵画へと軸足を移すと、それまでの問題意識をより発展させた作品制作に着手します。平面と空間における存在の在り方を求めて、身体性を象徴するような筆致の抽象絵画を描き、1994年に亡くなるまで、様々な作風の作品を通して「存在とは何か」という問い合わせ続けました。本展は作家の没後30年を機に、近年再び注目され始めた本作家の代表作を一挙に展示し、初の美術館での個展として、作家の全貌を紹介します。

【展覧会名】没後30年 木下佳通代

【会期】2024年5月25日（土）- 8月18日（日）

【主催】大阪中之島美術館

【会場】大阪中之島美術館 5階展示室

【ポートレート及び主な出品作品】



（左から）撮影者不明 撮影年：1987年頃（推定） | 《93-CA792》 1993年 | 《む36》 1976年 | 《78-1》 1978年 | 作品はすべて
木下佳通代、大阪中之島美術館

■醍醐寺展

【概要】

醍醐寺は平安時代前期の貞觀16年（874）理源大師聖宝によって建立され、真言密教のうち加持祈禱や修法などの実践を重視する寺として発展してきました。その長い歴史において、醍醐寺には天皇や公家、武家との深い関わりから貴重な文化財が多数伝わっています。また、応仁・文明の乱によって荒廃した寺院を復興させた豊臣秀吉が、醍醐の花見を開いたことでもよく知られています。大阪では初めての開催となる本展では、醍醐寺の歴史と美術を「山の寺」「密教修法のセンター」「桃山文化の担い手」という三つのテーマで構成します。国宝《文殊渡海図》、重要文化財の《不動明王坐像 快慶作》をはじめ、脈々と継承されてきた貴重な寺宝を紹介します。

【展覧会名】醍醐寺展

【会期】2024年6月15日（土）- 8月25日（日）

【主催】大阪中之島美術館、総本山醍醐寺、日本経済新聞社、テレビ大阪



【会場】大阪中之島美術館 4階展示室

【主な出品作品】



(左から) 《文殊渡海図》 (国宝) 鎌倉時代 (13世紀) | 《如意輪観音坐像》 (重要文化財) 平安時代 (10世紀) | 《不動明王坐像 快慶作》 (重要文化財) 鎌倉時代 (建仁3年、1203年) | すべて 画像提供: 奈良国立博物館

■ 塩田千春 つながる私^{アイ}

【概要】

塩田千春（1972年生まれ）の出身地・大阪で、16年ぶりに開催する大規模な個展です。現在ベルリンを拠点として国際的に活躍する塩田は、「生と死」という人間の根源的な問題に向き合い、作品を通じて「生きることとは何か」、「存在とは何か」を問い合わせています。本展覧会は、全世界的な感染症の蔓延を経験した私たちが、否応なしに意識した他者との「つながり」に、3つの【アイ】—「私／I」、「目／eye」、「愛／ai」を通じてアプローチしようというものです。それぞれの要素はさまざまに作用し合いながら、わたしたちと周縁の存在をつないでいると考えます。インスタレーションを中心に絵画、ドローイングや立体作品、映像など多様な手法を用いた作品を通じて、本展覧会が「つながる私」との親密な対話の時間となることでしょう。

【展覧会名】塩田千春 つながる私^{アイ}

【会期】2024年9月14日（土）- 12月1日（日）

【主催】大阪中之島美術館、MBSテレビ（予定）

【会場】大阪中之島美術館 5階展示室

【主な出品作品】



(左から) 《巡る記憶》 2022年 写真: サニー・マン ©JASPAR, Tokyo, 2023 and Chiharu Shiota | 《家から家》 2022年 写真: サニー・マン ©JASPAR, Tokyo, 2023 and Chiharu Shiota | 《台風の目》 2022年 画像提供: バンコクアートビエンナーレ ©JASPAR, Tokyo, 2023 and Chiharu Shiota | すべて 塩田千春



■TRIO パリ・東京・大阪 モダンアート・コレクション

【概要】

パリ、東京、大阪。世界有数の3つの都市から近代・現代美術の優れたコレクションを有する3つの美術館——パリ市立近代美術館、東京国立近代美術館、大阪中之島美術館——が集結。20世紀初頭から現代までのモダンアートの魅力を、約150点の作品により紹介します。34のテーマについて、各館コレクションからそれぞれ1点の作品を選出し、3点1組の「トリオ」を作り提示する新たな試みです。ピカソ、マティス、佐伯祐三、草間彌生、バスキアなどの人気作家の作品はもとより、時代や国や美術史的枠組みを超えた、作品どうしが生み出す意外な親和性、そして新たな化学反応をお楽しみください。

【展覧会名】開館3周年記念特別展 / TRIO パリ・東京・大阪 モダンアート・コレクション

【会期】2024年9月14日（土）- 12月8日（日）

【主催】大阪中之島美術館、東京国立近代美術館、日本経済新聞社

【特別協力】パリ市立近代美術館、パリミュゼ

【会場】大阪中之島美術館 4階展示室

【主な出品作品】



（左から）アンリ・マティス 《トルコの椅子にもたれるオダリスク》 1928年 パリ市立近代美術館 photo: Paris Musées/Musée d'Art moderne de Paris | 萬鉄五郎 《裸体美人》（重要文化財）1912年 東京国立近代美術館 | アメデオ・モディリアーニ 《髪をほどいた横たわる裸婦》1917年 大阪中之島美術館

■Space In-Between : 吉川静子とヨゼフ・ミューラー=ブロックマン

【概要】

本展は日本において初となる、吉川静子（1934-2019）とヨゼフ・ミューラー=ブロックマン（1914-1996）の大規模な回顧展です。日本人アーティストの吉川とスイス人グラフィックデザイナー・ミューラー=ブロックマンはそれぞれ進むべく道を開拓しながら、夫婦として創造的な生涯を共に過ごしました。吉川は人生の大半をスイスで過ごし、1960年代70年代に抽象絵画と彫刻により女性芸術家として注目されます。一方ミューラー=ブロックマンは、洗練されたタイプグラフィーと「グリッドシステム」によるグラフィックデザインで、1950年代以降スイスを代表するデザイナーとして国際的に知られるようになりました。ミューラー=ブロックマンの構成的デザインと、吉川の芸術性と分野を超えた活動の軌跡をご堪能ください。

【展覧会名】Space In-Between : 吉川静子とヨゼフ・ミューラー=ブロックマン

【会期】2024年12月21日（土）- 2025年3月2日（日）

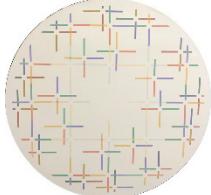
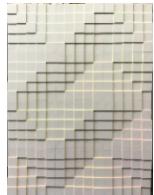
【主催】大阪中之島美術館

【特別協力】Shizuko Yoshikawa and Josef Müller-Brockmann Foundation

【後援】在日スイス大使館

【会場】大阪中之島美術館 5階展示室

【主な出品作品】



(左から) 吉川静子 《COLOR SHADOW NO. 86》 1979-1980年 Copyright and courtesy of the Shizuko Yoshikawa and Josef Müller-Brockmann Foundation | 吉川静子 《m432 'cosmic fabric' - radiant - 2》 1991-1993年 Copyright and courtesy of the Shizuko Yoshikawa and Josef Müller-Brockmann Foundation | ヨゼフ・ミューラー=ブロックマン 《5月の祝祭週間コンサート・チューリッヒ》 1951年 大阪中之島美術館 ©Museum für Gestaltung Zurich, Switzerland | ヨゼフ・ミューラー=ブロックマン 《ムジカ・ヴィヴァ》 1970年 大阪中之島美術館 ©Museum für Gestaltung Zurich, Switzerland

■歌川国芳展

【概要】

江戸末期の浮世絵師、歌川国芳（1797 - 1861）は、奇抜なアイデアや斬新なデザインで名高く、国内外で高い人気を誇ります。30代前半に「通俗水滸伝豪傑百八人之一個（壱人）」シリーズで世に出て以来、武者絵を得意とし、3枚続きの大画面も用いてダイナミックに描きました。天保13年（1842）に役者や遊女を描くことが禁止されると、苦境の中でユーモアと機知に富んだ戯画を数多く制作。猫を筆頭に金魚や鳥など様々な動物を登場させた戯画は、国芳作品の魅力の一つとなっています。本展は国芳展の決定版として、武者絵や戯画をはじめ、遠近法や陰影など洋風表現を取り入れた風景画、美人絵や子ども絵など、幅広い画題の浮世絵版画に貴重な肉筆画を加え、約300点を展示。国芳の魅力を余さず伝えます。（会期中展示替えあり）

【展覧会名】歌川国芳展

【会期】2024年12月21日（土）- 2025年2月24日（月・休）

【主催】大阪中之島美術館、読売新聞社

【会場】大阪中之島美術館 4階展示室



【主な出品作品】



(左から) 《鏡面シリーズ 猫と遊ぶ娘》 弘化2年（1845）頃 | 《「美盾八競 晴嵐」宮本無三四》
弘化2-3年（1845-46）頃 | 《遊女道中図》 嘉永元-3年（1848-50）頃 | すべて 歌川国芳

今後開催する展覧会情報

特別展 生誕270年 長沢芦雪 一奇想の旅、天才絵師の全貌—	2023年10月7日（土）- 12月3日（日）
テート美術館展 光 — ターナー、印象派から現代へ	2023年10月26日（木）- 2024年1月14日（日）
決定版！ 女性画家たちの大阪	2023年12月23日（土）- 2024年2月25日（日）

各広報窓口は館のホームページをご確認ください

<https://nakka-art.jp/press-post/>

■Osaka Directory supported by RICHARD MILLE

【概要】

今年度は小谷くるみ（1994年、大阪府生まれ）、肥後亮祐（1995年、北海道生まれ・京都在住）、木原結花（1995年、大阪府生まれ）の3名を紹介します。いずれも関西ゆかりの、新進気鋭のアーティストたちです。会場はいずれも大阪中之島美術館の2階「多目的スペース」です。

【会期】Osaka Directory 4: 小谷 くるみ 2023年11月18日（土）- 12月17日（日）

Osaka Directory 5: 肥後 亮祐 2023年12月23日（土）- 2024年1月21日（日）

Osaka Directory 6: 木原 結花 2024年1月27日（土）- 2月25日（日）

【主催】大阪中之島美術館、公益財団法人 関西・大阪21世紀協会

【supported by】 RICHARD MILLE

【協賛】サントリーホールディングス株式会社、ロート製薬株式会社、大和証券株式会社、西日本電信電話株式会社、ダイキン工業株式会社、株式会社丹青社

【会場】大阪中之島美術館 2階 多目的スペース

【料金】入場無料



【参考作品】



(左から) 小谷くるみ 《21g》 2020年 | 肥後亮祐 《Null Island》 「Kyoto Art for Tomorrow 2021 ー京都府新銳選抜展ー」展示風景 (2021年、京都文化博物館) | 木原結花 《行旅死亡人》 2016年

「ああさか ディレクトリ サポートド バイ リシャール・ミル」とは

「Osaka Directory supported by RICHARD MILLE」は、大阪中之島美術館が関西・大阪21世紀協会と共同で主催する、関西ゆかりの若手作家を中心で紹介する展覧会です。これからの時代を象徴する、新たな表現を生み出す作家を毎年紹介していきます。※ディレクトリとは、IT用語でファイルデータを整理し分類するためのフォルダ等を意味します。本シリーズを通して、将来活躍が期待される関西の若手アーティストファイルをディレクトリに格納していくように、ここ大阪中之島美術館から彼らの活動を広く世に紹介し、世界に羽ばたくことを支援していきます。

本リリースに関するお問い合わせ先

Mail／ artpr@nenelaco.com

〒531-0072 大阪市北区豊崎3-15-5 TKビル

Tel／ 06-6225-7885 Fax／ 06-7635-7587